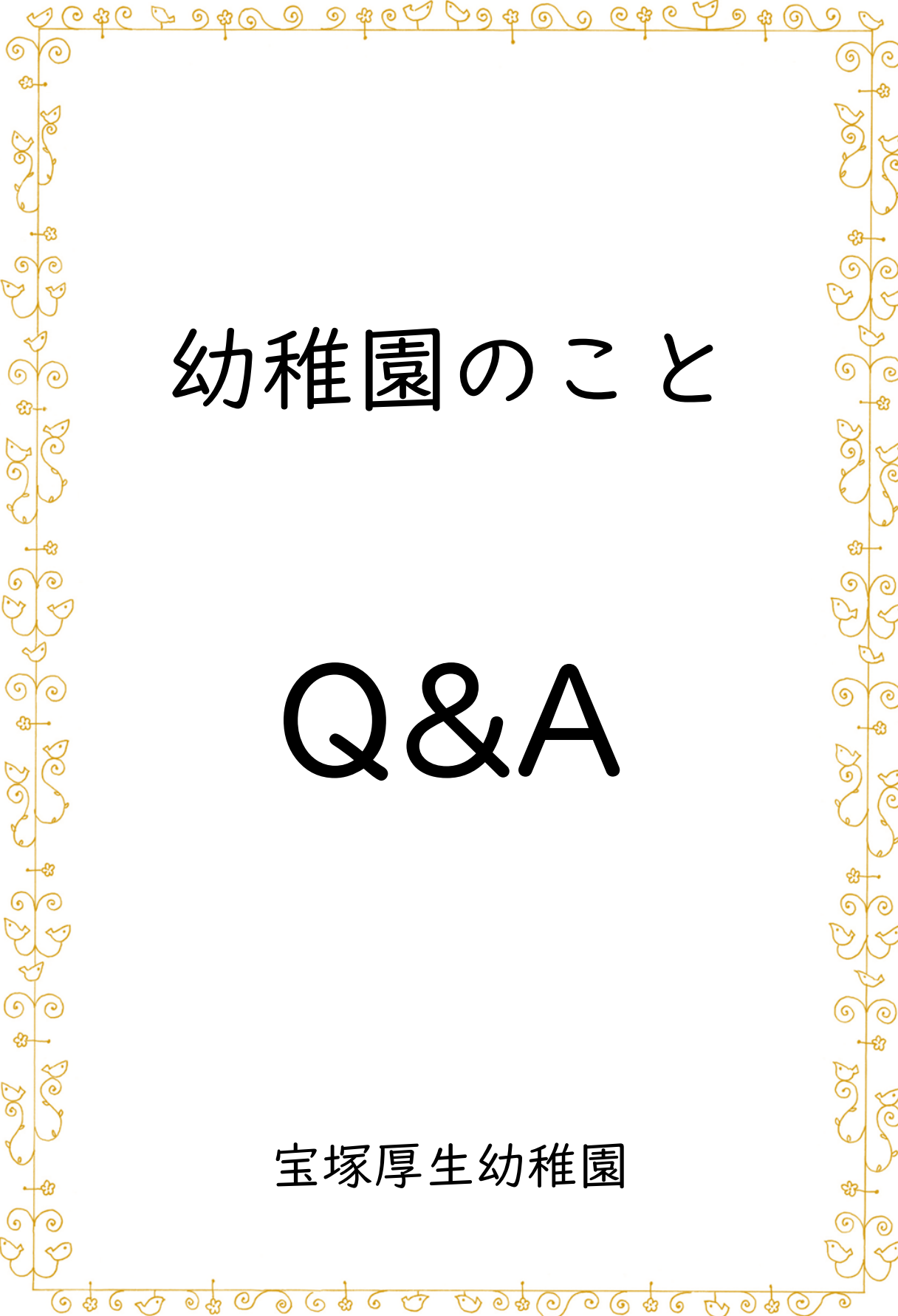




幼稚園のこと

Q&A

宝塚厚生幼稚園

Q 制服はありますか？

A 服装は自由ですよ

動きやすく、のびのびと活動できる服で来ていただくようお願いしています。保護者の方にお聞きすると、子どもたちが自分で着る服を決めている場合も多いようです。

恐竜好きな男の子が、全身恐竜柄の服で登園

先生「お洋服に恐竜がいっぱいだね」

子「じつはパンツもきょうりゅうだよ！」

サッカーが好きな女の子が、ユニフォーム姿で登園

先生「ユニフォームよくにあっているね」

子「ようちえんおわったら、こうえんでサッカーするんだ♪」

大人もそうであるように、子どもも自分の好きな服や、普段から着慣れた服を着る喜びは、日常の何気ないことですが、とても大切なことのように思います。動きやすいお気に入りの服で、心も身体ものびのびと遊ぶ子どもたちです。

Q 昼食は給食ですか？お弁当ですか？

A 週に2回給食、週に2回お弁当です

「せんせいみて！だいすきな〇〇が入ってる！」「たまごやき、いっしょだ！！」・・・お弁当の時間になると、あちらこちらで子どもたちの嬉しそうな声が聞こえてきます。お弁当の良さは、作ってくれた人の顔が見えるので、食べ物に対する愛着や食の大切さを実感できること。そして何より、大好きなお母さんやお父さんが作ってくれたという喜びにあります。

長時間幼稚園で過ごしている子どもたちにとって、お弁当の時間は家庭とのつながりを感じられる、ほっとしたひとときとなっています。小さなお弁当箱ですので、ご飯と2,3種類のおかずや野菜でいっぱいになりますよ。前日の残り物などを皆さん上手に利用されていらっしゃる。また、お子さまの体調や食欲、アレルギーなど調節がしやすく、どれだけ食べたかによってお子さまの状態も把握できます。このように一人ひとりの状態にあった細やかな配慮が出来るのが、お弁当のよいところですね。

当園では就学へのワンステップとして、又ご家庭の負担軽減の為、週に2回給食(選択自由)を導入しています。和食、家庭料理を大切にした給食を提供していただいております。

Q 保護者のお手伝いはありますか？

A 必要に応じてお願いしています

日々の保育の中で、お手伝いが必要な際は幼稚園からその都度、お手伝いの募集を呼び掛けています。

- 夕涼み会の準備とお店番
- お芋の苗植え、お芋掘り
- 園内ガーデニング
- 秋の遠足引率

等々

興味のある方やご都合のつく方が、自主的にご参加くださいます。保育中の子どもたちの様子を見る機会にもなり、父母問わず喜んでご参加くださる方が多い印象です。

又、マリアの会(保護者会)を設けて、講演会や講習会などを開催しています。

マリアの会で中心になって働いていただく方は、毎年立候補で決まります。保護者の方々の自主性を尊重したいので、強制ではありません。人数にも決まりはないので、その年々で「やりたい」と思ってくださいる方をお願いしています。

Q プールのお手伝いがあると

聞いたのですが・・・

A 安全を考慮して大人の目を増やしています

夏になると、園舎屋上にプールを設置し、子どもたちとプール遊びを楽しみます。楽しいプールですが、危険を伴う活動でもあり、大人の人数を増やして安全に活動したいという思いから、保護者の方に参観に来ていただき、一緒に安全に楽しく遊ぶ様子を見守っていただいています。

また、お時間のある方には着替えのサポートも、お願いしています。

プールあそびの中でもたくさんの成長を見せてくれる子どもたち。一緒にその成長を喜べればと思います。

Q キリ基督教信徒ではないのですが

入園することはできますか？

A もちろん入園していただけます

キリ基督教保育は、キリ基督教普及のための保育ではありません。子どもたちが豊かな愛の中で育まれることに重きをおき、一人ひとりを大切にする保育です。

子どもたち自身が自分を信じ、
人を愛する心が育まれていく

子どもたちのありのままを受けとめ、それぞれが自分らしい歩みをはじめることができるように、日々保育しています。

各ご家庭で大切にされている子育ての思いが、当園の大切にしていることと同じであれば、是非入園をご検討ください。

Q 先生の配置は何人ですか？

A 子どもの安全を守るため、

その年々で決めています

クラスの園児数だけでなく、それぞれの子どもの特性やクラスの状況に応じて、教師の配置を決めています。

2025年度の場合	年少担任1名	保育補助1～2名
	年中担任1名	保育補助1～2名
	年長担任1名	保育補助1名

Q 親が参加する行事には

どのようなものがありますか？

A 下記行事にご参加いただいています

○春の親子遠足(平日)

親子で一緒に公園へ行き、遊びやお弁当を楽しみます。

○保育参観(平日)

普段の園生活の様子を見に来ていただきます

○田植え(平日)※年長児のみ

田んぼの泥に足を入れて、親子で田植えを経験します

○プール参観(平日)

プール遊びの様子を見に来ていただきます

○参加保育(平日)

子どもたちの遊びに実際に入ってもらい、自由あそびの大切さを知っていただく機会となります

○夕涼み会(夏休み中の土曜日)

幼稚園での夏祭りを楽しめます

○祖父母参観(平日)

おじいちゃんおばあちゃんを招いて、一緒に楽しめます

○Fun Shiny Day(土曜日)

「一人ひとりが楽しく輝く1日になるように」と願いを込めた運動会です

○稲刈り(平日)※年長児のみ

田植えで育った稲を、親子で刈りに行きます

○プレイデー(土曜日)

親子で一緒に楽しむ土曜参観です

○クリスマス礼拝(平日)

幼稚園のみんなでクリスマスの礼拝を守ります

○震災記念礼拝(土曜日)

阪神淡路大震災に思いを寄せて礼拝を守ります

○小さき花の会(平日)

一人ひとりの表現を楽しむ生活発表会です

上記以外に毎月、その月の誕生児の保護者の方をお招きして、誕生日会を開催します。

Q 自由活動では何をするのですか？

A 決めるのは子どもたちです

自由活動の時間をとても大切にしています。“自由“とは言うものの、毎月毎週カリキュラムをたて、季節に合った工作や、成長に必要なおもちゃを取り入れ、その時々で環境を作っています。子どもたちの成長に沿った環境の中から、それぞれが好きな遊びを見つけ、毎日たっぷり遊びます。

教師から指示をして遊びを「やらせる」のではなく、あくまでも子どもたちの「これがしたい！」という主体性を大事にし、遊びの中から人間関係の築き方や意欲、集中力、好奇心また知識を得ていけるよう、準備をしています。

これらの育ちは実体験から得られるもので、大人が口で説明したり、ビデオやテキストを見て覚える、ということからは得られないものです。

幼稚園で様々な友だちとたっぷり遊び、その中で笑い、喜び、時にはけんかしたり泣いたり・・・、健康にぶつかり合い関わり合う経験を繰り返すことで、一人ひとりの心の栄養となり、子どもは成長していきます。

Q 英語の学習はありますか？

A 子どもたちの興味に応じて環境を整えます

カリキュラムの中に英語学習というプログラムは入れていませんが、子どもたちの興味に応じて、外国語に触れる機会は様々にあります。ご家族に外国籍の方がいる場合や、海外に引っ越ししたクラスの友だちの存在から、海外に興味を持つ子が今までもたくさんいました。国旗を調べたり、言葉を調べたり、地球儀とにらめっこしながら国の場所を調べたり。子どもたちの興味は、遊びを通してどんどん広がっていきます。

英語に限らず、子どもが興味を抱いたものは、保育の中に積極的に取り入れ、「知りたい！」という気持ちを、それぞれのやり方で実現していけるように、環境を整えていきます。

一方的に教えられた学びではなく、自ら興味を持って獲得していく知識は、一生の宝物になりますね。

Q 長期休みの間、預かり保育はありますか？

A 長期休みも実施しています

春休み、夏休み、冬休み

(お盆、年末年始、土日祝日、教職員研修日を除く)も、
預かり保育を実施しています。

朝8:00～夕方18:00

※午前10:00までに登園していただきます

利用定員 20名

利用料金 10分 50円

Q 異年齢児との関わりはありますか？

A 自然な関わりを大切にしています

年齢でクラスを分けていますが、定期的に異年齢で関わり合える時間を設けています。子どもたちが自然と異年齢の関わりを楽しめるように、保育計画をたてています。

虫取り網を振り回している3歳児さんに、「こうやったらつかまえられるよ」と、網の扱い方を教えて一緒に虫取りをしてくれる5歳児さん。

お散歩に行く際、手をつなぎながら、3歳児さんのゆっくりした歩みに合わせて歩いてくれる5歳児さん。

年上の子どもたちと一緒に遊ぶことで、憧れをもって自分の遊びを広げるきっかけとなったり、年下の子どもと関わることで、手伝ったり、お世話をしたり、相手を思いやる気持ちが養われていきます。年齢の枠を超えて、お互いに成長するきっかけとなればいいですね。

お弁当や礼拝、お散歩や野菜の栽培等、様々な場面に異年齢で楽しむ時間を作ることや、他クラスへ遊びにいく機会を設けて、関わりの幅を広げている子どもたちです。

Q 通園バスはありますか？

A お家の方と一緒に幼稚園まで来ることを

大切にしています

それぞれのご家庭から、お家の方と一緒に登園し、「いってらっしゃい、たのしんできてね！」と、お送りいただくことを大切にしています。

通園バスでの登園と違って、毎日の幼稚園送迎には大変なイメージがあるかもしれません。ですが、子どもと一緒におしゃべりし、四季折々の風景や自然を感じ、たまには寄り道をしながら、歩きや自転車で通うことは、何にも代えがたい経験となります。

毎日園に来ることで、家での様子を保育者と共有することができるのも利点です。保育後には、毎日園生活の様子を、担任からお伝えする時間を設けているので、園での様子なども把握しやすく、子どもたちの園生活や、教師との関わりなどを垣間見ることができます。

バスの時間に左右されることもなく、心に余裕を持って登園していただき、保育を始められることも徒歩通園のメリットと言えるでしょう。

Q お誕生日会はどんなことをするのですか？

A 幼稚園のみんなで

その月々の誕生日児をお祝いします

子どもたち全員でホールに集まり、お誕生日会を開催します。その月に誕生日を迎えた子どものお家の方も招待し、みんなで礼拝を守り、お祝いの時間を楽しみます。先生たちからの出し物コーナーを楽しむ時間や、各クラスで歌を歌ってお祝いする時間もありますよ。

それぞれのクラスに戻ってからは、ご参加くださった保護者の方に、子どもたちの生まれた頃の写真を見せていただいたり、お話を聞かせてもらう機会も設けています。クイズを考えてきてくださる方や、子どもの好きな絵本や紙芝居を読んでくださる方など、自由に楽しんでいただいています。

最後には、ご参加くださったおうちの方も一緒に、みんなでケーキをいただいて、うれしいひと時を過ごしています。

Q 文字や数などの勉強はありますか？

A 幼児期に大切なことは、

勉強よりもあそびです

幼児教育の基礎は‘あそび’です。勉強をしないのではなく、勉強の基礎となる種が、あそびの中にたくさん蒔かれているのです。

文字や数字を使った遊びを楽しむことで、それぞれが必要な時期に、自然に興味を持って獲得していきます。文字を書きはじめるとも、「教えられたから書けるようになる」のではなく、「誰かに自分の言葉を伝えたい」という思いからスタートします。友だちの名前を知りたいから「なんてよむの？」と文字を読みたくなり、「だいすきだよ」と手紙を渡したいから文字を書きたくなるのです。子どもたちの「読みたい」「書きたい」という思いを大切にしながら、興味を広げていけるように環境を整えています。興味が広がった先に‘文字’や‘数字’があり、『知りたい』という思いが、学びに繋がります。

何に対してもそうですが、文字や数へ興味をもつ時期も一人ひとり異なります。早いから良いということでも、遅いから悪いということでもありません。小学校にあがったら、みんな同じように教えてもらえることなので心配いりません。一方的な勉強の時間ではなくても、主体的な遊びの中から、どの子も良い顔で自然に興味を広げていきますよ。

Q 少人数なので小学校でなじめるか心配…

A 幼児期にしか得られないものを育みます

小学校はどの幼稚園に通っている子にとってもはじめての経験なので、それぞれに戸惑いを覚えることと思います。ですから、幼稚園を小学校に向けての“予備校”とするのではなく、幼児期にこそ育まれる大切な心にしっかりと目を向け、安定した気持ちで無理なく過ごし、自信を持って小学校生活を迎えられるようにと考えています。

少人数なので、教師がどのクラスの子どものことも把握し、一人ひとりを大切に保育しています。また、保護者の方、子どもたちもそれぞれの名前や顔を知り、お互いの個性を知った上で、深い信頼関係をつくりながら過ごします。途中で入園してくる子どもも、温かい雰囲気の中で徐々に自分を出して遊ぶことができています。幼児期にしっかりとした人間関係を結ぶことは、安心してのびのびと個性を発揮していくことにも繋がります。

幼児期に育った安定した心が、就学後の子どもたちを支える土台となっていくでしょう。

Q 自由保育だと、

小学校に行ったときに困りませんか？

A 見ているのは、１０年後２０年後の姿です

“自由”と聞くと、毎日好き勝手に遊んでいるだけ？と心配に思われる方がいるかもしれませんね。保育者は、一人ひとりの成長段階や興味を把握し、あそびの中で様々な成長が出来るよう、その時々に適した環境を準備しています。自由であるからこそ、発見やヒラメキやアイデアが、子どもたちの心を豊かに動かし、自分であそびを見つけて発展させていきます。

近年の教育現場では、非認知能力の育ちを重要とする教育を求められるようになってきました。それは、目に見える点数として評価されるものではなく、目には見えない子どもの内面を育てる教育です。それはまさに、私たちの幼稚園が昔から大切にしてきたものでした。

自由保育は子ども主体の保育です。

子どもたちが自分で考える経験を多くもち、その考えを尊重しています。周りの状況や、その時々に関わる人のことも考慮に入れ、自分で判断していくのです。誰かに(大人に)指示をされたから行動するのではなく、自分の考えや思いで行動できる子どもたちとして育っていきます。

幼児期の子どもたちには、「自分が楽しければ相手も楽しい」「自分が悲しければ相手も悲しい」という、自分を中心にしたものの捉え方をする時期があります。いつまでもその時期が続くと、友だちとうまく関わることはできませんね。友だちとお互いの主張をぶつけ合いながらも、「相手には自分と違う考えがある」ということを、子どもたちは知っていきます。そして「違うのならどうしたらいいか」を考えていきます。考えた答えで友だちと関わると、ぶつからずに楽しく過ごすことができるのです。「みんなちがってみんないい」まさにこの言葉の意味を、子どもたちは自らの経験で知っていきます。

小学校に入ると、「椅子に座れないのではないか？」という不安も聞かれますが、自由保育だから座れないということはありません。厚生幼稚園の子どもたちは、先生に『座りなさい』と言われたから座るのではなく、『せんせいやともだちがなにかなんて言おうとしている！なんだろう！？』という思いで椅子に座り、耳を傾けています。

自由保育の中で、自分で気づき、自分で考え、自分で行動する姿をたくさん目にします。わたしたちが自由保育を大切に思うのは、このような‘生きる力’を育みたいと願っているからです。

小学校生活のはじめは、幼稚園との違いから、戸惑うこともあるでしょう。ですが、それぞれに自分の考えをもった子どもたち、人生の一番大切な幼児期にこそ育つ心は、その後の一人ひとりの歩みを豊かにしていくと信じています。